

盛り上がった日本選手権の マスターズ100m

文月は暑い盛り盛夏。久しぶりにマスターズ陸上が登場したのが、6月9日から4日間の日程で大阪市のヤンマースタジアムで行われた第106回日本選手権。オープンだがマスターズの部・100mが実施され、男子M35、女子W35クラス以上のスプリンターが熱のこもったレースを繰り広げた。今回は日本選手権でのマスターズ男女100mを取り上げる。

公益社団法人日本マスターズ陸上競技連合、中野英聡

みなさんがんばった 桧舞台で100m走

男子の1組（風力+0.2）はM35～45クラスの8人がスタート。やはり若いM35の3人が上位の記録となった。11秒06の今井秀晃さん（和歌山）を筆頭に11秒07の兵庫顕さん（大阪）、11秒14の山本慎吾さん（大阪）がトップ3。

2組（風力+1.7）はM50の譜久里武さん（沖縄）が11秒51とただ1人の11秒台でトップ。この組はM50～60クラスの8人がタイムを競い、12秒01でM50の七森孝之さん（神奈川）とM55の松岡建志さん（東京）が同タイムで並んだ。

譜久里さんは2018年にスペインのマラガであった第23回世界マスターズ選手権のM45・100m11秒35（+0.3）で3位に食い込んだほか、同クラスの4×100mR（2走）に43秒77の大会新で金メダルに輝くなど、世界大会で過去にもメダルを獲得している人だ。

3組（風力-0.7）はM65～75クラス。9人が出場し、M65の大江良一さん（滋賀）が13秒29のトップでフィニッシュし、同じM65の渡部四郎さん（愛媛）が13秒53で続いた。9番目の15秒60でゴールしたのはM75の菅原浩さん（秋田）だった。

6人が出場したM80～85クラスの4組（風力-0.6）ではM80の浅野清敦さん（埼玉）が15秒35で1位。同じM80の近藤忠之さん（三重）が15



第106回日本選手権に出場した選手のみなさん

秒99と、2人が15秒台。後は16秒台で続き、6人目のM85の斎藤茂さん（茨城）が17秒29だった。

以上のなかで19年の第40回記念国際・全日本マスターズ選手権のM65・100mで12秒82（-0.1）のタイムで1位となった大江良一さんに今回の印象を聞くと「マスターズとは違った、何と言っているかわからないが素晴らしい。食事と言えば普段の食事とは味が違っていました。私のタイムについてですか？ この2年間、体調がもう一つだったのと、タイムも13秒7台に落ちていたので、今回の13秒29はまずまずかと。とにかく面白かった」と話した。

女子の3組（風力+0.4）までに12秒台で走ったのは1組（風力+1.2）のW35～45クラスで2人。12秒61の先頭でフィニッシュした伴佳恵さん（神奈川）に続いたのは12秒65の東郷博乃さん（鹿児島）で、3番手が13秒03でW40の熊谷香織さん（長野）

だった。

2組（風力+0.7）のトップ記録はW55の熊取谷信子さん（大阪）で13秒60。この組はW50～60クラスの9人だった。W60での一番いいタイムは林啓海さん（愛知）の15秒13だ。

3組（風力+0.4）はW65～90までの9人。やはりW65のクラスが速く、上位3番までを占めた。トップは15秒56の山田嘉子さん（奈良）で、後は16秒台で4人が続いた。8番目はW80の秋田ソノ子さん（奈良）で20秒25だった。

W90・100mに世界新 91歳の齋藤恵美子さんが樹立

国内最大のイベントである日本選手権。マスターズの100mは最終日の6月12日に行われた。レースを盛り上げた1人が1931（昭和6）年3月13日生まれ、91歳の齋藤恵美子さん（東京）だ。

W65～90までの9人が集った女子

第106回 日本選手権オープン競技 マスターズ種目

男子

組/風	順位相当	名前	所属地	クラス	記録
	1	今井 秀晃	和歌山	M35	11秒06
	2	兵庫 顕	大阪	M35	11秒07
	3	山本 慎吾	大阪	M35	11秒14
▽1組 (+0.2)	4	高橋 裕和	栃木	M40	11秒16
	5	水口 政人	神奈川	M45	11秒26
	6	徳本 和訓	鳥取	M40	11秒34
	7	中永 利也	岡山	M45	11秒59
	8	高山 修一	埼玉	M45	11秒72
▽2組 (+1.7)	1	譜久里 武	沖縄	M50	11秒51
	2	七森 孝之	神奈川	M50	12秒01
	2	松岡 建志	大阪	M55	12秒01
	4	大内 直浩	神奈川	M55	12秒20
	5	長谷川 浩	神奈川	M60	12秒33
	6	大宅 康喜	福岡	M50	12秒51
	7	小堀 拓也	栃木	M60	12秒82
	8	竜野 寿男	東京	M60	13秒01
▽3組 (-0.7)	1	大江 良一	滋賀	M65	13秒29
	2	渡部 四郎	愛媛	M65	13秒53
	3	岩本 茂	三重	M70	13秒96
	4	相羽 吉男	東京	M70	13秒97
	5	双木 広治	埼玉	M70	14秒53
	6	大谷 毅	栃木	M65	14秒61
	7	天沼 昭彦	長野	M75	14秒96
▽4組 (-0.6)	8	上山 庄助	京都	M75	15秒13
	9	菅原 浩	秋田	M75	15秒60
	1	浅野 清敦	埼玉	M80	15秒35
	2	近藤 忠之	三重	M80	15秒99
	3	鈴木 勲	東京	M80	16秒06
	4	土居 実	北海道	M85	16秒20
5	高嶋 賢二	石川	M85	16秒92	
6	齋藤 茂	茨城	M85	17秒29	

女子

組/風	順位相当	名前	所属地	クラス	記録
	1	伴 佳恵	神奈川	W35	12秒61
	2	東郷 博乃	鹿児島	W35	12秒65
	3	熊谷 香織	長野	W40	13秒03
▽1組 (+1.2)	4	高橋 小夜	栃木	W40	13秒04
	5	石川 千里	北海道	W45	13秒22
	6	石澤 由希	青森	W40	13秒69
	7	森本 博美	徳島	W45	13秒89
	8	内田 亜実	埼玉	W35	14秒29
▽2組 (+0.7)	1	熊取谷 信子	大阪	W55	13秒60
	2	谷 真由美	富山	W50	13秒84
	3	芦原 広美	広島	W50	13秒98
	4	笹森比呂子	青森	W50	14秒06
	5	中尾 晴実	神奈川	W55	14秒23
	6	岡崎由起子	福岡	W55	14秒34
	7	林 啓海	愛知	W60	15秒13
	8	碓井由紀子	愛知	W60	15秒41
▽3組 (+0.4)	9	石川 順子	愛知	W60	15秒59
	1	山田 嘉子	奈良	W65	15秒56
	2	堀 良子	神奈川	W65	16秒42
	3	長尾 典子	愛知	W65	16秒48
	4	瀧美 裕子	滋賀	W75	16秒66
	5	赤峰フミコ	大阪	W70	16秒96
	6	種波 久子	北海道	W70	17秒45
7	清野 数子	千葉	W80	19秒33	
8	秋田ソノ子	奈良	W80	20秒25	
9	齋藤恵美子	東京	W90	22秒76	

= WR (世界記録)

3組。W90は齋藤さんだけ。この日の天候は晴れ。風は追い風0.4mの微風が吹いていた。齋藤さんは「85歳からはじめた陸上で、権威のある日本選手権に出させていただき光栄です」と話し、スタート前はかなり緊張したようだ。

緊張のせいか「満足にスタートが切れなかった」とか。だが、懸命に走り、22秒76でゴール。すかさず場内アナウンスが流れた。「ただ今のタイムは(W90クラスの)世界新です」と。大きな拍手が起きたのは当然だが、実のところ齋藤さんは2021年に上尾であった埼玉マスターズ秋季記録会のW90・100mで21秒25(+1.1)を出していたのだ。

日本選手権での22秒76といい、さらにいい21秒25は13年に90歳の守田満さん(熊本)が出していた23秒15の世界記録を齋藤さんが9年ぶりに更新した。

85歳からマスターズ陸上をはじめた齋藤さんは東京在住。薬学系の大学在学中にソフトテニスをはじめ、42歳で硬式テニスに切り替えた。テニスでは85歳以上の部のダブルスで、2年連続優勝を飾っている。さらにトルコで行われた世界大会では、ダブルスの80歳以上の部で準優勝した実力者だ。

マスターズ陸上への「誘い」は、ひょんなことがきっかけだった。今でもテニスはプロの指導者について習っているが、このコーチから齋藤さんが80歳の頃「陸上の短距離を走ったら記録が出るのでは」と何回か助言をもらった。

齋藤さんは素直に受け取って「それなら」と、陸上専門の指導者につき短距離の練習に励んだ。85歳になったとき、コーチに「マスターズ陸上に出てみましょう」と出場を勧められた。

そこで齋藤さんは16年の千葉マスターズ選手権のW85・60mに出てみた。結果は11秒67の日本新。これまでの日本記録は12秒27だ。翌17年には山梨マスターズ記録会でW85・

200mを走り、41秒58の快記録をマークしたのだ。この記録は45秒65の世界記録・日本記録を9年ぶりに更新するものだった。

この年の千葉マスターズ記録会でW85・400mでも1分41秒63の快走で、1分49秒46の世界記録を6年ぶり、2分26秒19の日本記録を1年ぶりに破った。86歳での快事だった。

さらに18年、87歳で東日本マスターズ(非公認)のW85・100mに出た際は19秒37(+0.5)の世界新・日本新相当で走った。そして先述したW90での100mで21秒25の好記録だ。同レースのときに60mにも出場し、12秒76(+0.5)の日本新でフィニッシュ。従来の13秒63の日本記録を8年ぶりに書き替えた。

なお、世界マスターズは男女とも60mは実施されていない。

齋藤さんは1カ月に2回はコーチの指導を受けているが「腕の振り方とか、シビアに助言してもらっています。スタートがもう少し上手になれば、まだ記録が上がるはず、と言われていました」と話す。テニスも続けており週2回はコートに通い、コーチから指導を受けている。



第106回日本選手権のW90・100mで22秒76(+0.4)の世界新記録を樹立した齋藤さん

向学心の強い齋藤さん。テニスは9月に兵庫県芦屋市で行われるベテラン大会に出場予定。89歳まで週1回、医学専門学校の講師を務めたり、マスターズ陸上で数々の記録を誕生させる才女なのだ。

60歳まで勤務していたのは国立医薬品食品衛生研究所。147cm、35kgと小柄な齋藤さんが「タンパク質を欠かさないように肉類をよく食べます。好き嫌いはありません」と言い「陸上は楽しい。これからもM90クラスで頑張ります」と張り切っている。